

KSKQ あかねニュース No.67

川西市障害者共働作業所あかね

Tel&Fax 072-755-4101

〒666-0017 川西市火打1-5-19

ホームページ akanesan.net

E-mail: rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp

「上から目線」症候群

先日、合唱団の仲間たちと、よその合唱団の演奏を聴きに行きました。合唱の中ではマイナーとされている男声合唱。いわば「ライバル」の演奏を聴いて切磋琢磨する」といったところですよ。

会場も良く、練習も行き届いていて好演奏、一曲ごとに懇切丁寧な解説がつくし・・・良いことづくめの筈なのに、何かもうひとつ、心から楽しめないというか、満たされないものがあるのです。それが何なのか、私も、一緒に行った仲間も良く判らない。お互いによく判らないまま演奏会は終了、たくさんのアンコールにも応えてくれて、とりあえず満足して会場を出ました。

客席にバラけて座っていた・・・

仲間たちが次々出てきて集まります。誰もがなんとなく浮かない顔。やがて年長の一人が云いました。「全体にうまいけど、あの司会進行役の語りの「上から目線」は、何ともイヤ味だなあ。私はよく知っています、皆さん知らないでしょう？みたいな。」・・・

かかっていた霧が一瞬で晴れたような感じでした。そうか、これだったんだな、心から楽しめない、満たされない気分にならせてくれていたのは。

* * * * *

「上から目線」という言葉は、最近出来たのでしょうか？若い人たちの間ではやっている言葉なのでしようか？そのあたりのことを知らないまま、わたしたちは

結構この言葉を日常的に使っています。

意味は難解でなく、「知識や情報を多く持っている者が、それらを少ししか持っていない者に対して、見下した態度で接すること」「強いものが弱いものに対して見下した態度で接すること」など、要するに「見くだした」態度が表面に現れた状態を云うようです。

このような態度を厳に慎むべきであることは当たり前で、人と接する機会の多い職種にあつては、このあたりの教育研修をかなり徹底的にやり、顧客満足(CS)対策に万全を期します。

多くの飲食店や高齢者介護施設など、すなわち椅子などに掛けている客と話す場面の多いサービス業の従業員は、そんな時必ずと云つていいほど、かがんで椅子に掛けてある客と同じか、わずか

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

に低いあたりに自分の目の高さを決めてから、あらためて穏やかに笑顔で話しかけます。決して立ったまま話しかけたりしないのは、そうすることによって客を、「見おろして話す」ような形にさせまい、という配慮です。とても行きとどいた心遣いだと思います。

問題はそうした訓練や研修を日頃から受けていない、圧倒的多数の人々が、日常行動の中で、そのような態度をとってしまう場合です。

二つの場合に分かれ、一つは意図的に、つまり本心から「見くだしている」場合、もう一つは本人は気をつけているつもりなのだが相手が「見くだされた」と感じる場合です。



一つめのケースはもちろん良くないに決まっていますのですが、我々は心の中に潜在的に、自分より「劣る」ものを相手を持っていると気づいたときに沸き起こるあの種の「優越感」のようなものを持っていて、どうしてもそれを抑えることができないものなのだ、ということなのでしょう。か。「KYって何のことかって!?!?」おまえ、そんなことも知らないのかよ、常識だぞ!」などという、あれです。「自分は自分なりに努力して、知識、特技、体力、財力などを得た。相手はそこまでの努力をしていない。」彼は胸を張って相手を見くです。・・・必ずしも「悪い」とは云い切れないかも知れませんが、「まあ、識見豊かなことは結構だけど、あんまりひけらかすなよ」といったところでしょうか。

誰だって「ノーマークの領域」というのはありますから、たとえば高名な評論家が多たまたま或る生活必需品の店頭価格を知らなかったからと云って、目くじら立てることもないのです。

そこへいくと、もう一つのケースは難しい。冒頭に挙げた合唱団の司会進行役の場合、こちらのケースだと思えます。

彼の場合は勿論他意はなくて、聴衆に少しでも曲目を理解してもらおうと懇切丁寧な説明をしたのですが、そのあまりの流暢さと長口舌に聴衆がある種の反発を覚え、「豊富な知識をバックに喋りまくって、我々を見くだしている」と感じてしまったのでしよう。

この例に限らず、二つ目のケースは「上から目線」を送っているつもりもない「発信者」と、送られたと受け止める「受信者」のあいだに存在する微妙なズレが結構重く残ります。

発信者の中には(自分では気づかない)無意識の「優越感」があり、受信者の中には(自分は見くだされているんだという)「被害者意識」のようなものがある、というのでしょうか。

* * * * *
その点、あかねのメンバーたちは、実におおらかです。

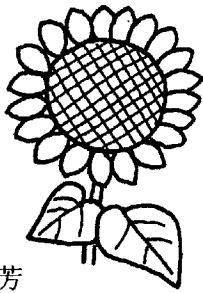
障害の程度の軽いメンバーは、自分より重いメンバーを(態度と言葉で)容赦なく見くだしたかと思えば、次の瞬間には、ここから優しく助けてやります。

受ける側も、見くだされたと腹を立てたと思えば、助けてもらったと喜び、一貫性のなさなど、どこ吹く風とばかりに、屈託なく、共働生活を楽しんでいます。

「上から目線」を、うっかり送ってしまったかねない立場にある人は、もしあとから、(自分でまたは人から云われて)気づいたら、次からは気をつけようと本気で自分と言いつける。

「送られたかなア?」と感じた人は、・・・
「でも、彼は、ほんとうは悪気はないんだ」と自分に言い聞かせる。・・・

これで、世の中、まああるく収まっていくとみるのは楽観的すぎるでしょうか?



芳川 雅美

共働作業所あかね 二十周年を迎えて

先日、「えんぴつの家」理事長、松村さんをお迎えして、記念講演会を開催しました。お忙しい中、快くお引き受け下さり、心から感謝申し上げます。

三十数年間にわたる障害者運動の草分けとして歩んでこられた数々の歴史は、まさに同じ時代を共有したあかねの歴史でもありました。

会場の皆さんと共に、その歩みの尊さ・豊かさ・せつなさ・・・を共感した二時間となりました。

「えんぴつの家」は初代の玉本格先生をはじめ多くの人々とのつながりを持ち、特に阪神淡路大震災以後、兵庫の障害者団体のまとめ役として大きな貢献をされました。

今後、同じ兵庫県の仲間としての、つ

ながりを大切にして、障害者と共に人間らしく生きることを目指したいと思えます。これからもよろしくお願いいたします。

二十周年を迎えて、あらためて原点をふりかえって・・・という想いで、十年ほど前に書きとどめた原稿をもう一度、ここに想いをこめて載せさせて頂きます。(4〜5ページ)



「人間」 Ⅱ 「障害者」の自立に必要なもの

原点にかえって・・・あかねの願い

地球上の生物はほぼすべて、生れてから一定期間、親の保護のもと成長し巣立っていく。これを普通「自立」と呼んでいいだろう。人間も例外ではない。

人類が地球上あらわれた何十億年も前にも障害者が生れなかったという保証はない。

そして、他の生物と同様、運動機能・知恵をそなえなかった人間は生きていけない。ただ、そのことは想像に難くない。

そして、人類の進化の中、ホモサピエンスと呼ばれるようになった人類は、その知恵で障害者・弱者も生きていける環境をつくりあげたにちがいない。

しかし、その過程で人類は障害者を「邪魔者」扱いし、「隠し」「隔離し」「選別し」、差別していった歴史はいろんな資料がしめす通りである。

そこから「障害者」の人権、「自立」に向けての認識・運動がはじまる。

が、その歴史はわずか数十年。実質的な効果のある単一体の運動は起こらなかった。ギリラの運動から二つの大きな流れ、私たちのような作業所、法人組織の施設と変化したのが現状だろう。

「在宅」から「外」へ

「在宅」から「外」へ、「一か所の集団」から「地域分散」へ。

あかねの願いはそんな先人達の苦難の上になり立っている。緒についたばかり。多様な価値観の存在する現在、運動は、実践は、離合集散をくりかえしている。一つにはまとまらない。しかし、何十年・何百年後に夢を託して今を実践するしかない。それが人類の歴史なのだから。

いちばん大切なものを忘れ、自己主張する現在。「なにが」「障害者」にとって最も価値ある「形」なのか。

総論では定着しているように見える。「孤立」から「社会の中へ」。おそらくこれは今、私たち人間のありのままの生活そのものであり、特別なものは何も無い。

しかしそんな自然な願いは実現から遠い。運動への「障害者」の強いきずなは、運動として続かない。原因は目標に近づく方法論に対する個人の想いにある。

感情の対立、目先の思惑、あきらめ、そんなものが組織の外へ向けるべきエネルギーを内部に向けさせ、運動を弱体化させていく。

歴史上、あらゆる運動の悲劇的な結末は、この道をたどっている。私たち「あかね」も例外ではなかった。

「閉じこもる作業所」ではなく「地域」の中へ。そんな願いをこめて「あかね」は発足した。「共働」に障害者も健常者も区別なく働く願い。

「地域への行商」に、地域で生活する一番

の基本を作ること。働くことの意味、お金を稼ぐことの意味を知るといふ願い。

遠く未来に、自ら地域に住み、自ら働き、生活費を稼ぎ、生活していく・・・

人が人として生きていく当たり前の姿を求めたのである。その道ははるか・・・

しかし、そこに働く者が心にあかねの願いを共有した時、人は自ら歩き始める。

内なる変革は限りなく時間がかかるけれども。

行商・センター喫茶・あかねの夢・あかねはうすを通じて、本当に私たちが身につけなければならぬのは共通の目的理解。

「自立への一つの道のり」

人間の自立への条件は大きく分けて二つある。「物質的なもの」と「精神的なもの」のどちらが欠けても幸せな生活は成り立たないが、最低限「物質的なもの」が欠ければ生きていけない。



しかし、「生活保護費」「障害者基礎年金」等だけが人間を幸せにするわけがない。

障害者の置かれている現状は、親の保護・心ある人の善意によりただ生きているだけ・・・

世の中の自然な動きの流れにそって、当たり前の生活をし、働き、その代価としての金を稼ぎ、その中で誰もが持つ喜びを得る。そんな当たり前の姿を求め、目標とし、私たちは「行商」を中心にすえた。

稼ぐことが「自立」への一つの道であること、共同の確認を原点にすえたのである。

原点の共有は、方法論の違いから来る対立を生まない。そんな原理を信じながら。

逆にいえば、方法・手段が目標・目的・理想と錯覚が起る時「稼ぐばかりが能じゃない」「もっと大切なことがある」という対立が起きる。どちらの主張も間違っていない。



悲しい対立は、方法の出でた原点「障害者の自立」という目標が、忘れ去られていくことに起因する。

行商も、あかねの夢も、うまくいっているとはいえない。

赤字、大世帯によるさまざまな問題。「今日の対応」に追われ、「明日」さえ見えない。見えなくなる苛立ち・焦り・・・

「今日の対応」を「あかね発足」の原点に立ち返り、いま一度、再確認し、歩み続けたい。



富田 啓子

メンバーミーティング

5月より、新しい試みとして、毎月お給料日に、メンバー・職員一同が集まって、メンバーミーティングが行われることになった。

あかねでは、仕事の内容上、弁当の配達や、行商、牛乳パックの回収、老人センターでの喫茶など、それぞれが独自に動いているので、昼食や休憩でも一同に顔を合わせることが少ない。だから、このミーティングは、1か月に一度、全員が集まって、話をする貴重な機会となりそうだ。

五月の1回目は残念ながら二人の欠席者がいて、全員参加にはならなかったが、改まって机を囲み、みんななんだか、恥ずかしそうにしながらも、うれしそう。

最初にお給料を受け取り、このミーティングの主旨「メンバーそれぞれが仕事に対する意見や希望、週末のガイヘル希望や日頃の想いなど、どんなことでも話し合える機会」だということを聞いた。

初めてのミーティングだったので、まだ何を話してよいか分からず、この日は、今不安に思っていることを一人ひとりから聞くことになった。

自分の健康のことや、毎日の仕事での心配事など話す中で、ほとんどの人が、親が居なくなつた後の生活の心配を話した。

普段あまりそのような話はしないので、一人ひとりが親亡き後の不安や心配をはつきりと感じ取っているのを聞いて、やっぱりという気持ちとともに驚きもあった。

人数の少ないあかね作業所では、必要性を感じながらも、グループホームやケアホームの話はなかなか前に進まない。

けれども、今後、このミーティングや個別の話し合いを通して、それぞれの暮らし方や必要性を見つめあい、それがグループホームでなくても、ケアホームでなくても、一人ひとりに合った暮らしを支えられるように、その声を聞くことから始めたいと思う。

1回目のミーティングの後、メンバーのうち、何人かは、自分の意見や想いを伝え

ることが出来る場だと感じ、「次のミーティングでこれ言おう!」と行商中の車の中で話すこともあった。

そして六月、2回目のミーティング。

この度は全員出席! やっぱり、みんななんだが少し嬉しそう。六月を振り返り、七月の予定を聞き、夏祭りの人員配置のため、一人ひとりの希望を聞いた。

それから、今回は日頃の仕事に対する想いや希望を話すことになった。

「僕も、あかねの夢に入りたい!」
「僕も、あかねの夢に入りたい!」
「僕も、あかねの夢に入りたい!」
能勢電平野駅前前の定食・居酒屋 あかねの夢」に毎日お昼の部に女性メンバーが出勤させていたでいてるが、これは男性メンバーからの声である。

いつも老人センターの喫茶に専属で入つてくださっている平田さんは、「私もたまには皆と一緒に行商に行きたい!」

また、あかねの夢・夜の部に入っているメンバーは、「夜、あかねの夢に入る日に昼も入ると疲れるので、夜と昼は違う日に入れてほしい」など、具体的な意見もあった。また、こんな声も!...

「行商で荷物を運ぶ時にケンカするなら、仕事しない方がまし。車の中で大声を出されるとストレスがたまるので辞めて欲しい」。いつもなら、そこからまた、揉め事に発展したりするのだが、ミーティングでの発言なので、皆が聞いています。

言われてる側も言う側も冷静になる。

「自分も気をつけるので、お互いに気遣おう」ということで、折り合いがついた。

作業所では、日々の忙しさの中で、つい職員が全てを決めてしまいがち。

意見や想いがあってもなかなかゆっくり聞く機会がなく、不満やわがままと捉えられてしまうこともある。

そんな積み重ねゆえに、自分の思いを伝えることをあきらめたり、人に決めてもらうことに慣れてしまったり、人の顔色を気にし過ぎたり、時に乱暴な言葉や行動で想いをぶつけてしまうこともある。

今は月に一度のミーティングだけでも、これを通して自分の意見を言ってもよいということ、それをどのように伝えればよいのか、みんな同じようなことを感じて

いること、お互いをどのように受け入れあうのかということ、共有しあいながら、みんなで楽しくやりがいのある自分たちの職場を作っていきたい。

岡田 小月

やってきましたあ!

テキ屋のシーズン

ジメジメとした長雨の続く梅雨最中となりました。

田畑にはこれからの成長に、とても必要な時期ではありますが、外に行商に行くあかねとしてはちよつと辟易します。

それでもシトシト降る雨の中、車走らせながら新緑から深緑へと変わる町や山間の変わりゆく姿に少しホッとする今日この頃、だったので、七月を迎え、ハッと!あかねのビッグイベント、地域の夏祭り納涼祭出店が近づいていることに気づいて心ソワソワ。

「一年は早いものだ」バタバタ休みなく

続く夏のはじまり。

そして、稼ぎ時(笑)あかねにとつて一番賑わい人が集う、ある意味あかね祭り。予定が決まることに「うわあ、重なる」。「一日五か所も無理」今年は特にかついスケジュール。

機材も足りない、材料調達に混乱(多分)お手伝いの方もどうしよう?「えらいこっちゃなあ!」と。

しかし、あかね歴戦のお手伝いさん。

「こつちの祭りはまかせとき」

「テント立てはいつでも言っちゃア」

嬉しい声が返ってきます。段取りを知りつくしたお手伝いさん、頼もしく、背を押されながら気持ちも夏祭りモードに切り替わる。

メンバーのみんなも、どこの祭り頑張ろうか?と士気高揚。年々自我が芽生え自分の希望も言えるようになりつつある一人ひとりの成長を、季節の移り変わりと共に感じます。さあ始まりませう夏祭り、お手伝いや賑わしに是非あかねの店を訪れてください。

渡邊 誠

多数の賛助会費の更新・新規

ありがとうございます。

昨年に引き続き、賛助会員の更新・ならびに新規での加入のお願いをしたところ、たくさんの方々から早速のお振り込みならびにご持参いただき、心より感謝申し上げます。私どもの賛助会員については、一応、毎年五〜六月を更新ならびに新規加入の時期とさせて頂いていますが、もとより、締切などというものは設定していません。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

夏祭り出店・いらっしゅい!

今年も、お手伝いボランティア大募集中

- 7/24 土/東谷
- 7/25 日/東谷
- 7/31 土/グリーンハイツ
清和台・北小・光風台
阿古谷
- 8/01 日/グリーンハイツ
清和台
- 8/7 土 8日/大和
- 8/14 土 15日/のせぐち
- 8/21 土/松ヶ丘

お知らせ

- *ふれあい広場(あかねはうす)は、7月・8月お休みします。
- *夏季休業のご案内
- 作業所・・・8/11 水～8/17 火
- あかねはうす・・・8/11 水～8/17 火
- あかねの夢・・・7/31 土～8/17 火
- 弁当(作業所) 8/7 土～8/17 火
- 喫茶あかね・・・8/13 金～8/16 月

お中元・お盆帰省のおみやげに・・・
あかね手作りケーキの集大成

玉手箱セット ¥2,500

各種ケーキ・クッキー・手作りジャムの詰め合わせセットです。詳しくは、あかねのホームページ(あかね作業所で検索)でご覧ください。申し込みは8/6まで受け付けています。(全国郵送可)

寄付金・カンパ・助成金

ご報告とお礼

(4～6月)

- 滝井様 北村様 ハンドル交流会様
(賛助会費に併せてのカンパ)
- 堀内様 簾下様 坂村様 廣田様
- 大西様 納田様 井上様 三木様
- 新海様 福永様 的場様 沢田様
- 天下井様 河井様 藤岡様 熊谷様
- 田中様 **ありがとうございました!**

編集後記

隔月発行のこの通信。毎回、原稿のネタが多すぎて掲載でききれない時と、ネタに困る時期がほぼ交互にやってきました。メンバーたちの生々しい活動での表情などは、是非、あかねのホームページをご覧になってください。(あかね作業所と打って検索していただければご覧になれると思います。)さて、これはお知らせですが、十月三十一日(日)に二十周年記念パーティーを予定しています。よろしく
内海

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円